



マーシャル方面遺族会
 (旧クエゼリン方面戦死者遺族会)
 郵便番号 154
 世田谷区野沢3-11-3
 電話 東京(421)3614
 振替口座東京93487番
 編集兼発行人 浮田信家

戦友を偲んで

十二 徳次

暑中お見舞申し上げます。貴会々員の皆様には、お障りもなく、お過しのこととお喜び申し上げます。

さて先年来申し上げておりました私の旧軍人恩給が今度やっと支給され式万式千八百円受領いたしました。在職年数が短かったため、私が海軍々人として御奉公し、従軍したことによって与えられた今回一回限りの一時恩給の全額であつたのでございます。私はルオット警備隊に転勤を命ぜられました。便船の都合で、着任前に同島は玉砕してしまい私は九死に一生を得て生還いたしました。従つてルオットの戦死者のことは、一日として忘れられません。

今回受けた一時恩給は、その半分をこれら戦友に捧げてご冥福を祈り、残半分が私が戴いて、忘れることのできない戦争の惨禍を偲ぶよすがとなる品にさせていただきました。半額従つて誠に僅かではあります。貴会でこのためお役立て下されば幸いです。

本来ならば私達戦友が遺族の方々のお世話をし、英霊に報ずべきところ、私達だけでは種々の事情に絡まれて到底叶えられません。幸い遺族であられる会長様はじめ役員の方々よつての本会の運営を心から感謝しております。

年一度二月六日には必ず、靖国神社に参詣いたし、この日は私の命日であるとも考え、ご遺族の中に加わつてお詣りし、心を新たにしたい。又の一年を報恩の生活に励むことを誓つております。暑さ尚加わります折柄会長様、役員、会員一同のご健康をお祈り申し上げます。寸志に寄せて右まで

同封金額壹万壹千四百円也
 昭和48年7月25日

敬具



珍らしノアイルック環礁まで来て

はじめて井戸を見る(但し飲用不適)

目次

- 戦友を偲んで……………十二 徳次(1)
- 千歳空一七〇三空……………松本 芳晴(2)
- 軍事郵便……………戦塵抄より(2)
- 昭和四十九年二月六日のご案内(3)
- 中部太平洋遺骨収集政府派遣団
に浮田副会長本会代表として参加……………(3)
- 中部太平洋へ出発に当つて……………(3)
- 出征の思い出と直会旅行……………(4)
- 環礁20号へ投稿のお願い……………(4)
- 会費値上げの件……………(5)
- 環礁ミレー抄(8)……………成宮芳三郎(5)
- クエゼリン島今と昔の改版……………(6)
- 環礁ミレー抄(9)……………成宮芳三郎(6)
- 寄付者芳名……………(7)
- 戦友だより……………(7)
- 環礁ミレー抄(10)……………成宮芳三郎(7)
- 事務局だより……………(8)

千歳空——七〇三空

松本芳晴

「松本学生、千歳海軍航空隊付仰セツケラル」

折田教官からこういわれた時、私はてっきり、北海道に行くのだと思つた。艦船勤務希望だっただけにやや失望しながらも、家庭の事情が考慮されたのかと思つて、私に

「千歳空なら、マーシャルのルオットさ」

と教えてくれたのは後藤太郎である。驚いて、聞きかえしたところ、彼は今度は、はつきりそう云つたあとで次の通りつけ加えた。「オレのおやじが二四航戦の司令官だ」

ちなみに彼の父君は海軍中將後藤英次閣下であった。(ただし私が着任した昭和十七年六月二十三日は、前田稔中將にかわつていた)ルオットは正確にいうと、マーシャル諸島クエゼリン環礁に属する一つの島で、ニムル島とつながつており、その一つに庁舎と兵舎他の一つに滑走路と格納庫があった。周囲二キロにみたない小さな珊瑚礁で、船の上から最初に見た時水平線といっしょに見えた程平べったかった。東京から二、六〇〇マイルはなれていて、朝礼の時は、全員その方にむかつて遙拝した。

外南洋方面に赴任する十名は、五月はじめ經理学校を繰り上げ卒

業し横須賀から「極洋丸」に便乗、トラックに向かふ事が二つこの途中忘れぬ出来事が二つあった。その一は、ラバウルに寄港中、B17の空襲をうけたこと、その二はトラックで偶然後藤大作にあい、ミッドウェー海戦の真相を聞いたことである。空襲は洗波の

ようなもので別に驚かなかつたが、ミッドウェーの真相は、あまりにも大本営発表とかけはなれており、しかも、「三隈」の沈没と、有田が最初の戦死者となつたことは、考えても見なかつた事だけに、大きなショックであつた。

後藤もあたりをはばかるように、小声で話してくれたのであつたが、その内容は、ルオットで聞いたサンフランシスコ放送でいっそう明らかになつた。その文句はいまでもはつきり覚えてゐる。「山本五十六は天皇をだまして飛電は日本国民の前に姿をあらわさないののである」

このあと、まもなくして短波放送をきくことを司令から禁じられてしまつた。千歳空は陸攻三六機、戦闘機三六機の大航空隊で開戦時は第四艦隊に属し、ウェーキ島の空襲を行なうと共に揚陸作戦を援護した。

記録によれば、一回の空襲で陸攻三機を失ひ、戦死者二六名を出している。また開戦から四十日後の二月一日、米機動艦隊の奇襲を受けた時は、ベテランの搭乗員が奮戦、ルオットで六機、タロアで十二機の艦載機を撃墜し、巡洋艦一を小破しているが、千歳空もまた、中井大尉が壮烈な戦死を遂げた。

前記のとおり、わたくしの着任は一ヶ月もおくれ六月二十三日になつてしまつたが、その頃の千歳空は第十一航空艦隊に属し、機種も陸攻は九六式から一式へ、戦闘機は九六式から零式にかわつていた。本隊はルオットにいたが、占領したウェーキ島には村田大尉指揮の零戦十二機が駐留しており、別に、栗原中尉指揮の零戦九機がラバウルの台南空の応援に出かけていた。二四航戦には、千歳空の外に一空(タロア)一四空(イミエジ)が編入されていたが、共にマーシャル海域で日夜哨戒に懸命であつた。

戦史をみれば分かるように、六月はじめのミッドウェー海戦から、八月七日の米軍のツラギ(ガダルカナル島の北10マイル)の上陸まで、日米両軍に大きな動きはない。千歳空でいへば、哨戒機の事故が二機ある位だ。隊内では運動会や演芸会があつた。開かれただけで平和であつた。こんな環境から私は実施部隊の中の人間模様といつたものを冷静に観察できたようだ。

司令大橋富士郎大佐は謹厳な古武士タイプの人であつたが、少々神経質にみえた。私は仮名づかいから箸の持ち方まで注意されたが、ラバウルでの激務の折にはよく

出している。また開戦から四十日後の二月一日、米機動艦隊の奇襲を受けた時は、ベテランの搭乗員が奮戦、ルオットで六機、タロアで十二機の艦載機を撃墜し、巡洋艦一を小破しているが、千歳空もまた、中井大尉が壮烈な戦死を遂げた。

●軍事郵便

錦鶴

文は来たかよ 海原越えて
一 楽し故郷の 空便り
封切る指にも 力がはいる
幾日振りかの この手紙
父母も達者か 妻もまめか
稔る稲作 豊年と
読み入る此の手 このからだ
嬉しきままに 声を出す

西の彼方に 故郷をしのび
綴る筆先 元気でいると
一筆書きたや このさきも
朝の早起き 月をものぞく
夕の任務の かえり道
登つて取つた 椰子の味
達者で暮らせと 最後のくくり
書いたこの文 いつとどく
註 千歳海軍航空隊ルオット島に出陣中、隊内で発行の大橋新聞の戦塵抄第一輯より

長は陸攻が渡辺少佐、戦闘機が小松少佐であつたが、飛行兵曹長ケラスには、支那事変で活躍した飛行時間四、〇〇〇時間以上のパイロットが多く、なにかと頼母しさが感じられた。「庶務主任はむずかしいことを

いつているが、オレは如何にしてうまく体当りできるかを考えている」と云つていたが、まもなくラバウルに振動、艦爆乗りとなつた。そして、初陣で戦死しようだ。別に一寸書いたことがあるが、小泉信吉主計中尉の工作艦「八海山丸」は早くからマーシャル海域を回つていた。ルオットにも来たが十月十三日、ギルバート諸島に向かう途中、敵駆逐艦四隻と遭遇砲戦の上撃沈された。無電連絡で千歳空の陸攻九機が救援に飛び立つたが間に合わなかつた。この後、間もなく、こんどは私が「五州丸」で、千歳空の一、〇〇〇名の整備兵と共にここを航行している。八月はじめ、潜水艦情報で米の有力艦隊がハワイを出港したと知つたときは、マーシャル諸島へ来るものと想定し、一同緊張したが、この艦隊は、結局、赤道を越えてガダルカナルへ向つたのであつた。これより戦争は一段と激烈な様相を展開することになつた。千歳空は陸攻隊のみ、二六航戦の指揮下に入り、ラバウルに移動することになつた。主計長田部三郎大尉(二期)は私にマーシャルに残るか、ラバウルに行くかどちらかを選べと云うので私はラバウル行きを希望した。

昭和十五年十二月以来の南洋進出で疲れきつた千歳空に内地帰還命令が来たのは十一月二十二日である。雪と氷の北海道へ、防暑服のまま帰つた。

海軍經理学校第八期補修学生の記録「破竹」より

環礁18号4頁第5欄参照

昭和四十九年二月六日

三十年祭・總會・現地報告会

直会(なおりい)旅行会の予告

あの年昭和十九年から早くも三十年の歳月が流れ去りました。

昭和三十九年には敵爾も盛大な二十年祭を行い英霊をお慰めし、その後対象戦域の拡大に伴い、会員も増加し会の活動も本格化して、四十二年には現地慰霊遺骨収集、そして四十三年には現地慰霊碑建立等の大事業を行うまでになりました。

この十月別項のとおり浮田副会長が、本会を代表し、厚生省の遺骨収集団の一員として再び現地にまいります。

かねてお知らせの副碑(クエゼリン島)に建立した忠魂慰霊碑の縮尺)は目下第一石材工業株式会社で謹製中で奉納位置も定めております。明年は靖国の英霊にとって大事な三十年祭ですから行事の細目について役員一同案を練り、次号の環礁(十二月中旬発行予定)にくわしくお知らせすることとしておりますが、その概要を次にお知らせいたします。

一、三十年祭
二、二十年祭と同じように靖国神社で行います。

三、總會・現地報告会
九段会館と予定しております。總會の議事はなるべく簡潔にして浮田副会長から最近の現地の島々の情況等を伺うことにします。

四、渡辺はま子さん独唱会
渡辺さんは、戦時中はよく戦地慰問をされ、戦後は戦犯慰問、戦死者慰霊等に情熱を傾けられております。いろいろなお話、又益々円熟された素晴らしい歌を聞かせて頂くことにしております。

五、直会旅行会
解散時刻が四時頃と予想されますので、今回のコースはバスで一時間半位の所を探しております。適当な所お気附の方なるべく早くお教え下さい。

六、会旗作製について
かねて会員の中から、会を象徴する会旗を作ってほしい、製作費は寄付するからなどと、熱心な要望がありましたので、三十年祭を記念して作製することにいたしました。デザイン等は会員大勢の御意見をとり入れた下さい。思いのまま何なりとお寄せ下さい。

中部太平洋遺骨収集政府派遣団に

浮田副会長本会代表として参加

事務局

外地戦域に今日尚眠る戦死者の遺骨を故国に迎えるため、政府の遺骨収集団が本年もまた各方面に派遣されるが、その中に今年には中部太平洋が含まれていること、そして、これに同行を希望する遺族は許される旨環礁18号でお知らせし希望の方は至急本部までお知らせ下さるよう通知しました。

同行希望の方がありません。七月はじめに、厚生省から本行動の腹案の通知をうけました。大体環礁18号でお知らせしたとおりで、多少具体的になったことは

1 出発は十月上旬で、7日間、十二月中、下旬帰国の予定
2 乗船は環礁では一、〇〇〇ト程度と書きましたが、厚生省からの知らせでは東海大学の調査船で大学丸二世号と称し七〇二トとの事

3 終始船内居住、費用の殆は自己負担等は前回お知らせしたとおり

これに基いて本部では緊急役員会を7月21日(土)開催し、浮田副会長を、本会の代表として派遣することに決定し、会長の御了解を得ました。このことは早速厚生省に連絡し、浮田副会長の同行を願ひ出ましたところ、むしろ歓迎する方向で御承諾下さいましたので本部では早速この準備にとりか

かりました。又この役員会では、副会長不在の期間会の運営に支障を来さぬよう検討しましたが、日常の事務については佐藤常任幹事がこれに当り、佐藤常任幹事一存で決しかねる特別の場合は三常任幹事の協議により処理することにしました。

費用の殆は自己負担とあり、その内容は定かではないが、派遣費は会が負担する外、本会としては先年現地を訪れた際の関係があった、これらへの土産物、消耗品に属するフィルム等も本会が負担することとし、これが準備は、佐藤、井上、佐竹各常任幹事、末広、大高両監事が担当することに決められました。これによって、出発前の副会長に余分のご苦労をかけないよう又留守中の運営に事欠かぬよう役員一同結束して事に当るよう打合せが行われましたので、会員の皆様も御了解の上御協力下さい。

中部太平洋へ出発に当って

副会長 浮田 信家

事務局発表のとおり、役員会で

決定され、会長からもその旨申し付かりました。年令の関係もあって、ご期待に添えるかどうか、不安ですが行ってまいります。外務省を通じ、米国の了解を待っている行動予定は、東京港発後サイパンに寄港して挨拶・補給トラックでも挨拶・補給

モートロック諸島で挨拶・補給
ボナベ島では 挨拶・補給
クサイ島で 挨拶・補給

マジエロ環礁では 挨拶・補給
マロエラップ環礁 取骨
ウオツゼ環礁 取骨
ウートロック環礁 取骨
ウシヤエ環礁 取骨

クエゼリン環礁 取骨
アイリングラブラ環礁 取骨
ヤルト環礁 取骨
エボン環礁 取骨

ミレ環礁 取骨後、再びマジエロ環礁に寄り挨拶、補給
次サイパン島で挨拶・補給をすませて東京港に帰ります。マインシャル諸島中前回訪れなかったのは、ウシヤエ環礁とアイリングラブラ環礁の二つだけあとはすべて二回目です。クエゼリン環礁は申し出てはおりますが、実現は無理と

思っています。各島に顔見知り多く前回島々を廻ったコブラ集荷船の倍近い大きな船、洗面の水が豊富な船に比べ耐えられ、沢山の写真とお土産話をもって帰って来たいと希望に燃えて行つて来ます。

出征の思い出と直会旅行

新潟 高橋 タツ

事務局の皆様、ご遺族の皆様、お元氣でお暮しで居らっしゃいますか。事務局の方々度々環礁をありがとございます。

私は雪と雨で有名な新潟育ちです。私の住むところは、新潟県の中央とも申しませうか洋食器で名高い燕市でございます。皆様方のお勝手にもなられた鍋やステーキンポール各種、果物やカレーをとる花柄やウルトラマン入りのスプーンやフォークの名産地なのでございます。毎日大工場の、大皿生産で、燕市といえば、洋食器製造について日本では三本の指に数えられていた大工場地帯です。

又車で走りますと、三十分で、佐渡汽船発着場新潟港があり佐渡の山々が見えています。佐渡汽船を利用すれば、観光地佐渡には二時間で行けるよい所でございます。梅雨の頃になりますと「雨の新潟」というとおり、本当に一週間余も雨に降られるという所ですけど、今年はどうした事か、もう二十日も降らず毎日暑い暑い日が続いております。

二月六日には伊東温泉の直会旅行に参加させていただきました。本当に、楽しい二日間でございます。私はバスの中でジュースやお酒を戴きながら皆様の笑顔を拝見いたしましたとき、考えさせられました。思い出せば二十八年前私もまだ若かった日、五月三十日夫は三人の子を頼むよと云い残し出征した

しました。長男は母親に手を引いてもらい、私は坊やを背負って、半里の道を、勝って来るぞと勇ましくと旗を振り振り駅まで見送りました。駅に着くと三十分余の待つあいだ夫は、「秋の取入れには、大勢の人に頼み、決して無理をせずに、子供と両親を良く見てあげて、頑張ってください、きっと日本は大勝利なのだから」

と電車の発車とともに、子供にバイバイという声で涙の中に消えてゆきました。八ヶ月あまりしか、御国のための御奉公ができませんでした。

皆様方もご主人やお子様、ご兄弟を戦地に送られたことは一生忘れることが出来ない事でございます。八ヶ月余のご奉公で戦死致されたのですけど、出征後一年目に二十九才で戦死の公報が入りました時は夢かとはかり驚きの余り涙も出ませんでした。信じられぬまま幾日かすぎました。

その後実両親と子供三人、ただ夢中で農業と酒店の経営をつづけ生活いたしました。今は長男も亡き夫の年齢をこし三十四才。現在孫二人を見て、幸福に酒類商のお店に住んでおります。店の斜め前には、今から二十五年前石碑を建立し、朝起きればすぐ目の前におがめるようにしました。

「故高橋幸作南方方面にて戦死」の石碑が竣工した当時は道を通る人々は必ず帽子をとって頭を深々と下げて下さったので、私も感謝の気もち一ぱいでお礼を申したものでしたが、近頃は平気で石碑の前で立小便もする位で、考えさせられます。

村や近所の人達など出征当時や遺骨を出迎いに下されたことなど、今は人ごとのように忘れ去られたのではないのでしょうか。出征とは誰の為であったのか、戦死とは何を意味するものなのか思うと悲しくなります。

この悲しいことも胸に納め、マールシャル群島、ギルバート群島の遺族の私達、体を大切に、健康を守り、戦死された夫や子供、兄弟の分迄長生きし、長く直会の旅行に参加させていただき、せめてその日の一夜だけでも、当時の想い出又それれれ異なった御国話に花を咲かせ故人を偲んであげませう。三十年祭を本当に笑顔でお目にかかりませう。

直会旅行のバスの中の方々の顔が目の前に浮んできます。三十年祭には、各自のお国自慢の唄を一つずつ、下手でもよいか辛う思っています。二月六日の慰霊祭に参加致し、直会旅行をお待ち致しませう。次にこの旅行のことに付きまして、本部幹事の皆様本当にご苦労でございます。観光バスや旅館の手配本当に御苦労様です。私も何かと地元でお世話しておりますので、身にしみており、少しでも協力をお願いしたいと思います。

環礁第20号に投稿のお願い

事務局

環礁は第1号以来半年に一回即ち年僅か2回だけの発行で、今日に至ったが、号を重ね、次号は早第20号を発行するに至った。

創立当時全く知識のなかったマールシャル諸島、ギルバート諸島、その上ナウル島、オーシャン島等中部太平洋に、一島一島が絶海の孤島として散在する無数の小島、そして私共の肉親はすべて、この中のどこかの島で、尊き命を捧げた。何という島で、いつどのような最期を遂げたのか知る由もなく知る方法すら知らなかった。

しかしこれらを知りたい会員の一念は、篤志会員、厚生省、生還者、公刊戦史によって教えられ、環礁を通じて連絡の結果、今日では全会員がこれらの点を知ることができた。

環礁はこの間一回の広告もとらず宣伝もせず、総ての紙面を、前記諸項の探究に使用した。総てを知ることを得たこの喜びを願えばかりに当初は二万余の遺族に環礁を送った。住所不明や受取人の戦災等での不達は別として、悪徳遺族会に懲りて敬遠される例も多数あって、今日では三千名弱になった。この方々は本会が会費制となった昭和43年頃からである。毎年熱心な新入会員もあ一面、年輩の方で他界される方もあったこの数に落着いた。

明年は副碑を靖国神社に奉納し、戦歿肉親も更に身近に感ずることでもあり、会員の結びは更に深まるものと喜ばれる。

十年を経てここまで来た。そこで今後入手できた戦争の爪跡は細大なく環礁にのせること従来どおりであるが、更に遺された我々の記憶が確かの間に、戦中戦後なめて来た想い出、苦しかった事、口惜しかった事、情なかつた事、嬉しかった事、有難かつた事を環礁に書き残したらどうであろうか

新潟の高橋たつ様は「一当時は道を通る人々は必ず帽子をとって頭を深く下げて……」近頃は平気で石碑の前で立小便もする位で……と、訴えどころのない嘆きをもらしておられる会員の総てが遺族である本会の会員のすべてが背き、そして憤怒を感ずることと思う。

応募方法
1 戦中、戦後体験した悲しみ、怒り、喜び何でもよろしい。
2 原稿は十五字詰、縦書、枚数制限なし(文房具店で販売の原稿用紙は二十字詰が多い。二十字詰なら、上五字は空欄にして一行十五字とする)あまり長いものは適宜何回かに分けることをお許し願いたい。
3 締切 十月十日までに本会に必着のこと。

会費値上げの件

副会長 浮田信家

世の値上げばかりにも拘らず、本会だけは、役員一同工夫に工夫を重ね今日に至りました。昭和43年の総会で会費制にきまりましたが、その頃から既に給料の値上げと物価の値上げがどちらが原因とも、結果ともわからずジリジリと上ってきました。多くの従業員をもつほど人件費すなわち給料の値上がりが、ついに会社の

経営難に結び付いてしまうと聞きますが、幸い本会の場合人件費は運営費には影響ありません。会の性格上、運営は環礁を通じて行われていますが、これにもっとも影響するのは郵送料と環礁の刊行費であります。これらの経過を次表によって、御覧下さい。

参 考 資 料

10	9	8	7	6	5	4	環礁の号数
44.7	44.1	43.7	43.1	42.6	42.1	1~4 40.17 40.26 40.41 41.10	発行年月
15	15	15	15	15	15	2700	郵送料(定形、封書)
2800	2700	2700	2700	2700	2700	2700	組版代(円)(1頁)
3	2	2	2	2	2	2	刷り代(円)(1頁)
6	5	5	5	5	5	5	紙代(円)(1枚)
2	2	2	2	2	2	2	製本代(円)(1部)
4300	4300	4000	15800			18000	発 部 部 数

41・7郵送料定形封書従来の10円が15円に値上げされた

従来返戻となったものなど整理し、発行部数を減少した。本会会費制となる
更に発行部数を整理した。この結果8号のみ在庫○となった
8号の結果を参考とし300部増した
組版代、刷り代、紙代が値上げとなる

18	17	16	15	14	13	12	11
48.5	48.1	47.7	47.1	46.7	46.1	45.7	45.1
20	20	20	15	15	15	15	15
3700	3700	3300	3300	3300	3300	3300	2800
4	4	4	4	3	3	3	3
8	8	6	6	6	6	6	6
4	4	3	3	3	3	2	2
3000	3000	3000	3000	3000	3300	3300	4300

2月の総会の際会員より会費値上げの緊急動議があり大多数の賛成拍手があったが本部より時機尚早の説明があつて動議の決定を見なかつた

組版代の値上げあり、一方発行部数を更に減少した

製本代の値上げ。総会の際会員より昨年同様会費値上げの動議あり本件は環礁に掲載することで、了解を得、決定しなかつた(環礁14号11頁第2欄)

発行部数を更に減少した

刷り代が値上げされた。総会の際、会員が昨年同様会費値上げの動議があつたがあと一年待つこととした

47・2・1遂に郵送料定形型封書従来の15円が20円に値上げされた

郵送料の値上げにつき組版料、紙代、製本代共大巾の値上げとなった

2月の総会では会員の緊急動議そして相当きびしい御発言あり、本部も外部の値上げに耐えがたく、御提案を心から感謝し、時機と金額は本部一任という条件で会費値上げが決定された(環礁18号7頁第1・2欄記事参照)

以上によって明49年度総会では、本年本部に一任された値上げの時機と値上げ額を左記のとおり決定いたしましたことを報告申し上げます。お聞き願ひ致します。

記

一、会費値上げ時機

昭和49年度会費よりとする。

二、会費値上げ額

従来より五百円値上げし、年額を老千円とする。

なお既に49年度会費として納入された方は値上げ後の会費納入済として扱うこと

なおこの八月紙類の値上げが行われたばかりですが、更にこの十月には大巾の値上げが行われるとのこと、本会としては明春は三十年祭、副牌奉納等のこともあり、会の支出も相当増加が予想されますので、運営上楽観を許されません。

このため昭和48年度迄の会費未納の方は至急御送金いただきたくなおお願い出来れば右ご賢察の上この際御寄附をお考え下さいますようお願い申し上げます。

環礁ミレ一抄 (8)

成宮芳三郎

一塩の

魚と南瓜を

つつきつつ

椰子酒くみて

ひとときたのしむ

(元66番ミレ一島軍医長)

クエゼリン島の今と昔

—南海に眠る殉国の英霊に捧ぐ—

の改版発行について

事務局

昭和38年本会の前身であったクエゼリン島戦歿者遺族会は、右の戦史を製作し、希望会員におわけしました。

執筆して下さった先生方は
林 幸市様

クエゼリン島玉碎二ヶ月前まで、約一年八ヶ月、第六根拠地隊の参謀として、クエゼリン島で従軍された元海軍大佐（現在本会篤志会員）

松平永芳様

戦後防衛庁陸上幕僚監部、防衛庁戦史室に勤務され、クエゼリン島防衛戦を特に研究調査された元海軍大佐（現在本会篤志会員）

長谷川敏様

アジア航空測定株式会社に勤務し、マーシャル、ギルバート諸島の各所を廻り38年帰国された先生の三人の方でありました。

この先生方が御熱心な御執筆の結果写真版は

内南洋諸島要図

マーシャル群島要図

クエゼリン環礁の図

クエゼリン神社と海軍陸戦隊

クエゼリン島日本人墓地38年8月

クエゼリン島の激戦（その一）

同（その二）

トーチカと機関銃の残がい

船の残がい
水陸両用戦車の残がい
クエゼリン本島米軍の家で働く島の女

内容の目次は

序 会長 林 茂清
林 幸市

ありし日のクエゼリン
マーシャル群島
クエゼリン環礁
原住民の生活
日本の統治
軍艦常磐の巡航

マーシャル方面防備隊
クエゼリン島の初空襲
隊員の生活
慰問団の来島
ミッドウェイ海戦の前夜

米海兵隊捕虜処刑
陸軍部隊の増強と主要島の築城
南洋部隊の防衛作戦会議と玉碎戦準備

クエゼリン島の防衛戦 松平永芳
マーシャル方面の一般戦況
クエゼリン島の激戦
最近のクエゼリンの現状
旧内南洋諸島の現状
長谷川敏

最近のクエゼリン環礁
四 カロリン群島
三 マーシャル群島
二 マリアナ群島
一 太平洋信託統治地域
米軍の基地
戦火の跡

A5版、本文43頁という冊子であります。

その後年を逐い、本会の関係する地域が、ギルバート、ナウル、オーストリアなどに拡張し、その会名もマーシャル方面遺族会と変更されました。

そこで三十年祭の記念事業として、この戦史の改版を行い、本会としての決定版を発行することにしたいと思っております。

◇決定版内容の構想

クエゼリン島に関する限り、初版の活字が保好舎印刷株式会社格別の好意によって、そのまま保存されておりましたので、内容は一部に加除訂正は行つたとしても大きな改正はありません。

クエゼリン島以外のマーシャル諸島の各島及びギルバート諸島、ナウル島、オーストリア島については初版のクエゼリン島と同程度のものと致します。

これはマーシャル、ギルバート地域の太平洋戦争開戦から玉碎に至る経過、十九年二月頃から終戦に至る経過、そして遺骨収集の経過など付け加えることにいたします。

◇決定版の頁数と頒布価格

旧版クエゼリン島の今と昔を加え、10頁を考へております。
会員の皆様の御希望によって、印刷部数を決定いたしますが
二〇〇冊の場合 一冊 二,000円
三〇〇冊の場合 一冊 1,500円
五〇〇冊の場合 一冊 1,000円
一〇〇〇冊の場合 一冊 500円
となりませす

先年会員名簿の製作の熱心な御要望のあったことがありました。これに依りて、原稿をつくり、印刷し、ご希望を募つて、お頒けしました。ところが希望者意外に少なく、集まつた名簿代が印刷代に達せず会としては赤字になつたことがありました。

このため、今回の本会戦史の決定版の製作にあつたのは、まず希望数を決めることに致しました。その結果が前記のような代価になります。御覧のように部数が多いほど一冊の代価は大変安くなります。

既に「クエゼリン島の今と昔」初版のものを御注文になつた方、そして代価まで既にお払込み下さつた方に対しては長いことお待ちせしめて申訳ありませんでした。

◇決定版の発行予想期日

今からご希望の方を募集するのですが二〇〇冊に達しない場合は、発行できません。従つて御執筆願う先生方にも、希望部数が二〇〇冊に達しましたら、すぐ原稿執筆のお願いをいたします。

このような手順をとらなければなりませんので、早くても環礁第21号の発行、従つて明49年7月、状況によっては、22号と一しよに49年暮お手許にお届けることになるかと思ひます。

◇決定版内容のもつ意義

既に環礁を御覧いただいている会員の方々、中にも環礁17号に掲載した「戦史叢書のお奨め」によつて図書をお買求めの方々は、今

回の決定版に掲載される内容は、御存じのことが多いと思ひますが、戦死された肉親の方々の、御戦死に關連するメモとして後々のご子孫が故人を偲ぶよすがとしても適当でないかと考え本会が企画した次第です。

◇お願い

以上長々と書きましたとおり、本会としての戦記の決定版の仕事を進める上に必要でありますのでご希望の方は九月三十日まで、はがきをもってご希望部数を本部事務局あておしらせ下さいませようお願いします。

これまで御注文下さり特に代価までお納め下さつた方も、お手数ですが、ご希望部数おしらせ下さい。

二〇〇冊に達し次第本部では、発行の準備にかかります。

環礁ミレー抄 (9)

成宮芳三郎

南瓜採る

大滑走路原

石山は

低く積まれて

炎日かがやく

椰子かげに

芽えたる花が

残されしは

忠魂の兵

斃れたるあと

(元66警ミレー島軍医長)

寄付者芳名

(八二名)

今期もまた左に掲げますとおり、多数の有志の方からの御寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

ここに載せました会員の方からは、寄付の外に四十八年までの会費は全部いただいております。中には四十九、五十年と先々までの分を前納下さっている方も多数ありますことを申添えます。

環礁を御覧下さってお喜びのお便りをいただいたり、寄付の御送付によって経済的の御協力をお考え下さる実情に接し、会長はじめ役員一同張り合いを感じ努力をつづけております。

(昭和48年4月1日から昭和48年7月31日までに入金の分)

◆新潟県 六一七五 妻 高林 セキ	◆福島県 一〇〇〇 長女 菊地 レイ 母 堺 ヤキ	◆秋田県 一〇〇〇 相馬 ツギ 九五〇 小室舜司郎 五〇〇 小前 ミヤ	◆宮城県 一〇〇〇 新田富美子 〇〇〇 渡辺 雪子	◆青森県 五〇〇 姉 伝福 ちゑ	◆北海道 一〇〇〇 妻 安達智恵子 〇〇〇 妻 田村 ヨシ 九五五 父 北村弥三郎 五〇〇 妻 白山光枝子	◆茨城県 五〇〇 妻 松岡 イキ	◆栃木県 一〇〇〇 青柳 い志	◆群馬県 五〇〇 弟 淀川 元弘	◆東京都 五〇〇 母 石井 フミ	◆千葉県 五〇〇 母 水野 はな	◆静岡県 一五〇〇 甥 江藤 高雄	◆神奈川県 五〇〇 父 内山 秀吉 〇〇〇 弟 高野金四郎 〇〇〇 父 大石 岳男	◆愛媛県 一五〇〇 母 三好 勝子 二五〇〇 妻 伊藤 梅子 母 松木ミチル	◆徳島県 一〇〇〇 母 白井 コト 五〇〇 母 野田 好美	◆山口県 二〇〇〇 妻 内宮みつよ 一〇〇〇 妻 福谷 幸子 〇〇〇 妻 道源 ヒサ	◆岡山県 五〇〇 兄 木村 義郎	◆島根県 五〇〇 姉 中野フヂエ	◆京都府 一五〇〇 妻 中根 杉子	◆岐阜県 一〇〇〇 母 寺沢喜美代	◆長野県 一〇〇〇 兄 勝野仁一郎 〇〇〇 妻 鎌倉さかよ	◆石川県 五〇〇 兄 林 庄三	◆富山県 一五〇〇 母 長江 美 〇〇〇 母 吉田 よく	◆高知県 五〇〇 兄 鶴橋市太郎 〇〇〇 兄 平野 董	◆福岡県 四九二〇 弟 西原 康雄 一六〇〇 母 片山カズヨ 五〇〇 妻 江崎 ヒモ	◆佐賀県 二〇〇〇 母 宮崎 トモ 五〇〇 兄 手島 辰巳	◆長崎県 三〇〇〇 妻 平田 利子 一〇〇〇 兄 小川 直衛	◆熊本県 五〇〇 父 橋 半太郎	◆宮崎県 一〇〇〇 妻 池田 トミ 〇〇〇 父 西村 三吉	◆鹿児島県 一〇〇〇 母 中村ケサチヨ
-------------------------	------------------------------------	---	---------------------------------------	------------------------	---	------------------------	-----------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	---	---	---	--	------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	---	-----------------------	--	---	--	---	--	------------------------	---	---------------------------

戦友だより

千葉 相川 孝夫

環礁の編集発行、副碑製作、二月六日の年中行事、本堂にご苦労様です。役員各位に対して深謝と敬意を表します。クエゼリン島で玉砕した兄(当時23才)も喜んでいることでしょう。仏前に環礁誌を常に供えております。

48・2・28送付の振替の通信欄に

佐賀 井上 義夫

「時の経つのは早いもので、クエゼリン玉砕から今年は三十回忌がまいります。横井庄一さんやルパン島小野田元少尉のことなどがありませんが、クエゼリン島は狭い島ですから……とは云いながら……遺族のお気持は複雑なものがあるのでは……もしやと思う方もいらっしゃると思います」
(事務局註) 今年の年賀状にこのようなことを認めて本部に送って下さいました。このよう考え方もないとはいへません。もしも国の計画で、例えご自身の肉親が亡くなられた島でなくとも、マインシャルギルバート諸島に、政府の派遣員と同行し現地を、御覧になったら本会々員の多くが感謝すると思えます。

註・井上義夫さんは玉砕前クエゼリンから他の任務に転任になり、そのため生還され方ですが、いつも御遺族の身上に心を配って下さる方です。戦後自衛隊に入られました。昭和46年停年退職されました。

環礁ミレー抄 (10)

成宮芳三郎

爆風に
打ち上げられし
鉄帽が
鋭失ひて
椰子樹にかかれる

(元66警ミレー島軍医長)

事務局だより

○靖国神社みたま祭

去る7月13日山口県徳山市の会員、内宮みつま様と福谷幸子様のお二人から会に電話があった。県遺族会長が団長となって上京した参拝団の一員として、今ホテルにいた。午後6時靖国神社のお礼受所で会いたいという内容であった。私(浮田)は少し早目に家を出て指定の場所待った。お盆の入り、みたま祭の第一日だけに境内の混雑はすばらしく、通りあわせた池田権官司さんから人待ち顔の私が怪訝に見えたか、誰を待っているのか問われた。実はこれこれと話したら山口の遺族会長さんなら今朝参拝に見えた。一緒に探してあげませうと助けて下さった。丁度お約束の時間にこの団体が到着、お二人に社頭でお目にかかれた。お互い健康を祝し、祭神のご冥福を祈った。お二人から多額の寄附金と会費を託された。この人混みの中英霊のお引き合せと感謝にあふれた。そのあと誘われるともなく、大村益次郎銅像下の盆踊りの屋台の下に両足が釘付けされた。一時間近く見入った。年々増える外人の飛入りも異様に見られた。神田の民謡会の方々が師匠格で上段で廻れば、一般の参加者は下の円形広場に七列も八列も左廻りにレコードの鳴り終るまでつづける。レコードの止っている一、二分休んではまた動き出すという繰り返してであった。屈強な青年

年を見ると、あの頭脳で生死を誓った水兵の顔に見えた。ああ元気でいてくれたのかと息を吐く自分を感じハッとした。名残つきない銅像下の動きに別れをつけ、都営バスで、帰宅したのは、10時を大分過ぎた頃であった。

○東京都戦歿者追悼式

毎年八月十五日は日本武道館において天皇皇后両陛下が行幸啓のもと、厳かに挙行されるがそれと同時に東京都でも、知事主催の追悼式が行われる。本会では村上会長がご健康上参列出来なかつたので副会長が参列した。

式は

開式の辞

国歌吹奏

黙 禱

追悼の辞

都会 議長

東京都遺族連合会長

東京都戦歿者遺族代表

都 知 事

都議会議長

遺族連合会長

遺族代表

来 賓

閉式の辞

参列者は東京戦歿者遺族六〇〇名であった。

○東京都戦歿者追悼式に参列して

村上会長が御健康上のご都合で私は代理として参列しました。十二時十五分都知事・都議会議長・遺族連合会長の献花につづいて各区、各市、町・村の遺族代表一名宛、ですから五十数名の方々の献花が行われました。この間二

十分、大天幕の下ではあつても、折から八月の酷暑下、参列者は汗をふきふき冥福を祈りつづけました。来賓として参列し乍ら私も遺族、玉碑の前日まで二十八才海軍中尉勝利を信じて、クェゼリン本島を守備していたのに、私を慕ってくれた若い義弟でしたが、元気であつたら今年は五十六才、として今頃は何をしてるだろう、妻ももち子供もできて、ときどき遊びに来てくれていたであろうなど頭の中を駆けめぐりました。明治33年に生れた私は、日露戦争の終戦のときは6才、子供心に意味はわからぬまま敵は幾万ありとてもなど元気に真似をしたときそしてその後二十八年といえれば昭和八年既に長女と次女をもうけていたとき、日露戦争による戦歿者追悼式などという構想は皆無であつた。戦歿者はすべて国の手によつて靖国神社に祀られ遺族は扶助料によつて今日ほどみじめな生活はしてはなかつたのに。戦歿者もこのされた遺族も何という不幸なことであらう。敗けたのは国、戦歿者の一人一人、遺族の一人一人は、日露戦争のときと全く変りないのに。次から次にそんな妄想が起る中「マージナル方面遺族会々長殿」と献花の呼び出しがあり、白い菊花を霊前に捧げ、ご冥福を祈りました。(浮田)

○恩給法の一部改正

遺族等援護法

恩給法の一部改正についての法律案は、去る七月六日の参議院で可決成立し、遺族等援護法の一部改正についての法律案も七月十一

日の参議院で可決成立しました。これによつて本年十月分の普通恩給、扶助法、遺族年金等の額が(二三・四%)上るうえに、昭和28年の軍人恩給復活以来、使われなかつた「加算」が、恩給の金額計算に算入されることになりました。

このような簡単な書き方では、御了解できない方が多いと思ひます。ここ数年普通恩給も扶助料も遺族年金も、別に請求書を出さなくても、増額されています。今年十月から上る二三・四%も請求しないでも、増額して下さいます。ただ「加算」の復活によつて、増額される普通恩給・扶助料・遺族年金等は、受給者が請求書を出さなければなりません。このことは、市区町村の役場が知らせて下さると思ひますので、今後は特に役場からのお知らせに気をつけて下さい。或は役場に行つて、お宅の普通恩給、扶助料、遺族年金は「加算」に關係があるかどうかお聞きになつたらよいと思ひます。

○隠れた本会への協力者

5頁の会費値上げに因連し、この機会に紹介したい協力者が三人ある。

①保好舎印刷株式会社
店は都内で最も活気のある東京証券取引所の筋向という目貫きの場所にある。社長、専務を先頭に連日張り切つた勤務振りである。専務は毎日仕事はじめの前に出勤し八時十分には、そのニコニコした顔で従業員に、その日一日快活な勤務のスタートを切らせ

る。環礎の印刷費には5頁の表の外に写真版や凸版の版代もあるが遺族だけの遺族会という組織が知れてか協力的である。例えば本号なども8月20日に原稿を届けると三回の校正まで行つて30日には納品という迅速さである。編集人の不手際にとらさずかかる仕事の進み具合はこの社長、専務そして従業員の至誠と努力の賜である。

②厚生省内売店興業社(事務用品)
店は厚生省内にある。社長とその息子が従業員を指導して営業をつづけている。本会のような小さな会の相手は、量も少ければ、売上げも大したことはない。しかも厚生省という組織から見れば部外者の存在である。しかし本会の性格をよく理解してか価格にしても速度にしても、異常な勉強ぶりである。本会の事務用品費の支出額が毎年少ない一ツの原因となつている。

③厚生省内売店仲谷写真器具店
店は興業社と同じく厚生省内にある。先年本会の派遣員が現地から帰国の際多量の現像、引伸しを異常な勉強で、しかも迅速な処理であつた。

余白を借りて隠れた協力者を紹介した。

本 部
郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マージナル方面遺族会
電話(東京)三三二二番